

【氏名】 劉 旭

【所属大学院】(助成決定時) 北海道大学大学院

【研究題目】 北東アジア地域におけるエネルギー協力(石油・ガス分野)
—政府と企業の役割を中心に—

【研究の目的】

北東アジア地域におけるエネルギー協力の 1 つ重要なプロジェクトである東シベリア～太平洋原油パイプラインおよびその支線となる中口原油パイプライン(スコヴォロディノ～中口国境)をめぐる中口両国の交渉過程を分析し、存在する問題点を明らかにし、そしてその問題点の解決策を模索することは本研究の 1 つの目的である。それと同時に、環境というファクターが東シベリア～太平洋原油パイプラインの建設にすでに大きく影響したため、このパイプラインの建設をめぐる環境問題を分析し、その環境問題に対するロシアの政府、企業、そして社会団体の主張を明らかにし、彼らによる問題解決の仕組みを解明することは本研究のもう 1 つの目的である。

【研究の内容・方法】

中口間の原油貿易量の 3 分の 2 は陸上の鉄道輸送によって行われる。貿易量を拡大するために両国を結ぶパイプライン建設が検討されている。しかし、ロシアはパイプラインの完成により買い手の独占地位を中国側に与えることを危惧し、また、現在鉄道輸送の貿易価格に対し不満を持ち、パイプライン建設に対し消極的な態度を取っている。ロシアの中国に対する原油輸出価格は実は欧州輸出より高いが、輸送運賃を考慮する輸出利潤は欧州輸出のほうが高い。パイプラインの完成により中口原油貿易の輸送コストが軽減されると考えられるが、パイプライン運賃の決定が不透明であるため、将来に向けた両国間の原油貿易の交渉は難航している。輸送コストをカバーするため、ロシア側は中国側に対し輸出価格の引き上げを要求している。しかし、これは中国にとって受け入れにくい条件である。本研究では、両国にとって合意できる価格レベルが検証される。

一方、中口原油パイプライン建設に緊密にかかわる東シベリア～太平洋原油パイプラインの建設は環境問題に大きく影響されている。このパイプラインにかかわる環境問題は主に環境審査をめぐるものである。ロシアの法律により、パイプラインのような大型建設プロジェクトは国家機関による環境審査が必要である。しかし、この環境審査の結果は現地の社会団体、政府から反発を引き起こし、最終的にパイプライン建設に大きく変化をもたらした。環境審査をめぐる議論は主にレナ川の通過、ハバロフスク市の通過及び沿海地方の通過ルートに集中している。本研究では、環境審査をめぐる中央政府、地方政府、企業、社会団体の主張、その根拠と解決方法が検証される。

本研究では、年間輸出データ、原油マーケット情報などを駆使し、価格フォーミュラによる価格及びコスト計算の方法が用いられる。同時に、現地取材によりロシア政府、企業及び社会団体の関係者にインタビューするなど一次資料の収集も行われる。

【結論・考察】

中口間の原油パイプライン建設をめぐる価格交渉の解決は東シベリア～太平洋原油パイプラインの運賃設定に緊密に関連している。運賃が高いレベルに設定されると、ロシアの石油輸出企業にとってパイプラインの魅力が低下する。そのため、中国などのアジア諸国はロシアの企業に高い貿易価格を要求される可能性が十分ある。従って、パイプライン運賃が設定されるまで中口間の価格交渉が続くだろうと考えられる。

一方、東シベリア～太平洋原油パイプライン建設をめぐる環境問題のなかには多くの関心を集めたものもあるし、ほとんど報道されなかったものもある。大きな注目を集めたか否かは、それぞれの環境問題の客観的な深刻さに依存するというよりも、どのような人物あるいは機関がそれを取り上げたかに拠っているように見える。他の国々でも同様の傾向が見られるが、ロシアの場合、環境問題が政治的に利用される可能性はより大きいのではないかとと思われる。